

海外体験の報告書

社会理工学研究科
価値システム専攻修士2年

ウィーキャン¹という重度の知的障害者の方を40人雇い、クッキー作りを通して職業の能力を再び活かすサービスを実施している社会福祉法人にてインターンシップを行い、また、韓国にある他の社会的企業や障害者雇用と関係のある施設や企業を訪問してきました。以下では、その活動に関する報告をします。

実施内容

期間	実施内容
ウィーキャンにて	
2/14 - 2/18	実際の業務に関する研修を受け、実際に業務を行う事を通じて、重度の知的障害の方の安定的雇用を可能にしている秘訣を学ぶ。
2/21 - 3/11	ウィーキャンの中で行われている業務の中で特に興味のある、障害者が社会的に生きていくためのスキルの訓練業務を行う。
社会的企業や障害者関連の施設等への訪問	
3/14	希望製作所
3/15	福祉TV
3/16	韓国障害者雇用公団 職業能力開発院
3/17	ボイスアイ
3/18	韓国障害者IT協会
3/21	聖母社会復帰施設
3/22	帰国

実際にウィーキャンでインターンをしてみて

知的障害をもった勤労者と一緒に働いたり、材料の買い付けに同行したり、訓練業務に参加したりと、ウィーキャンでの業務を全体的にやらせていただいた。知的障害の勤労者と一緒に働いてみて感じたことが、知的障害をもった勤労者の中でも、かなり能力の差が大きいという点である。その能力の差を考慮し、適切な配置をしている点がうまいなと思った。業務を生地づくり、成型、包装チームにわけのだが、生地づくりや成型は難易度が高く、またミスしたものは製品にならないため、比較的能力の高い人をつけていた。また、

他にもこの事業所が優れているなど感じた点は、何よりもその給与面である。能力の差により若干の差をつけているらしいのだが、平均で月 90 万ウォン(日本円で約 67500 円)ほどをもらっている。最低賃金で計算すると、一人当たり 56.5 万ウォンのため、その高さがわかる。通常、こういった障害者が働く障害者勤労事業所では、最低賃金ももらえない場合が多い。日本でのこういったいわゆる作業所における平均月収は 13000 円ともいわれるほどだ。この事業所では、100%有機農国産の小麦粉と砂糖を使い他の商品と差別化し、マーケティングを行う人もつけてしっかりとネット販売を行っている点が強いなと思った。

訓練業務に関して

2 週目からは訓練業務にも参加させてもらった。通常、事業所では訓練をせず、作業だけでもいいそうだ。しかし、この事業所では、クリスマスや旧正月を除いた忙しくない時期は朝 1 時間ほど訓練を行っているため、すごいと思う。訓練内容は、お互いがされて嫌だった行為に対してみなの前で発表し、当事者に申告してもらうものや、逆に他の人の行為を称賛するもの、また、特技の披露等があった。知的障害者の場合、お互いのコミュニケーションがうまくいかない場合が多い。お互いのミスコミュニケーションを解消し、よりよい人間関係を築いていくための訓練は、いつか一般の職場に就職する際に非常に重要になってくるだろうなと感じた。自分自身も就職のための訓練業務に関わるため、自分がこのインターンシップを通して業務にかかわれたことで、自分のキャリアにとってもいい経験ができたなと確信している。

他の機関への訪問

初めの計画では 4 日間で 4 か所をめぐる予定だったが、地震の影響もあり、若干帰国日を遅らせて計 6 か所訪問することができた。どの事業体も障害者に関わる事業を行っている所である。

特にいい経験になったのが、福祉 TV への訪問だ。福祉 TV は障害者のための放送を行っており、24 時間字幕と手話がある韓国国内唯一の放送局である。また、番組内容も、障害をもった人のための就職に関する番組等、障害者に特化した番組があるのが特徴である。韓国には 60 ものチャンネルがあり、放送局は 97 もある。日本と違いそれだけ競争が激しいし、参入も可能のようである。日本でもこのような放送をすることができれば、福祉関連の会社や施設が、そういったものに興味がある人たちに対して広告を打つことができるため、面白いのではないかと思った。

聖母社会復帰施設では、精神障害者に対する職業再活プログラムを行っており、自分が 4 月から会社で行う事業とかなり近いため、たいへん参考になった。この施設では、職業再

活だけでなく、そのプログラムを受けるのがまだ厳しい人のための社会復帰プログラムから始まり、トータルにサポートしている点がいいなと思った。また地域社会のコミュニティーとの結びつきが強い点も、社会復帰をする上でかなり有益なのではないかと思う。

最後に

日本と韓国は近くて遠い国というが、福祉制度の面においてもかなり近い部分が多いなと感じた。もちろん韓国は日本から福祉制度を取り入れている部分が多いため、あたりまえだと思う。しかし、施設における人同士の集団としてのつながりを大切にする点は、日本がもっと学んだ方がいいのではないかなと感じた。

また、韓国は今後日本のように高齢化の時代を迎える。もともと文化的にも近い上に、日本でしか行っていない制度や、韓国でしか行っていない制度等が増えてくると考えられる。そういったときに、もっとお互いの国がお互いの国から学ぶべきなのではないかなと思う。欧米よりもお互いに文化的に近いのだから、そういう点で参考になることも多いのではないだろうか。そして、自分自身がこの2か国の橋渡しをすることができるよう、今後がんばりたいと思う。